

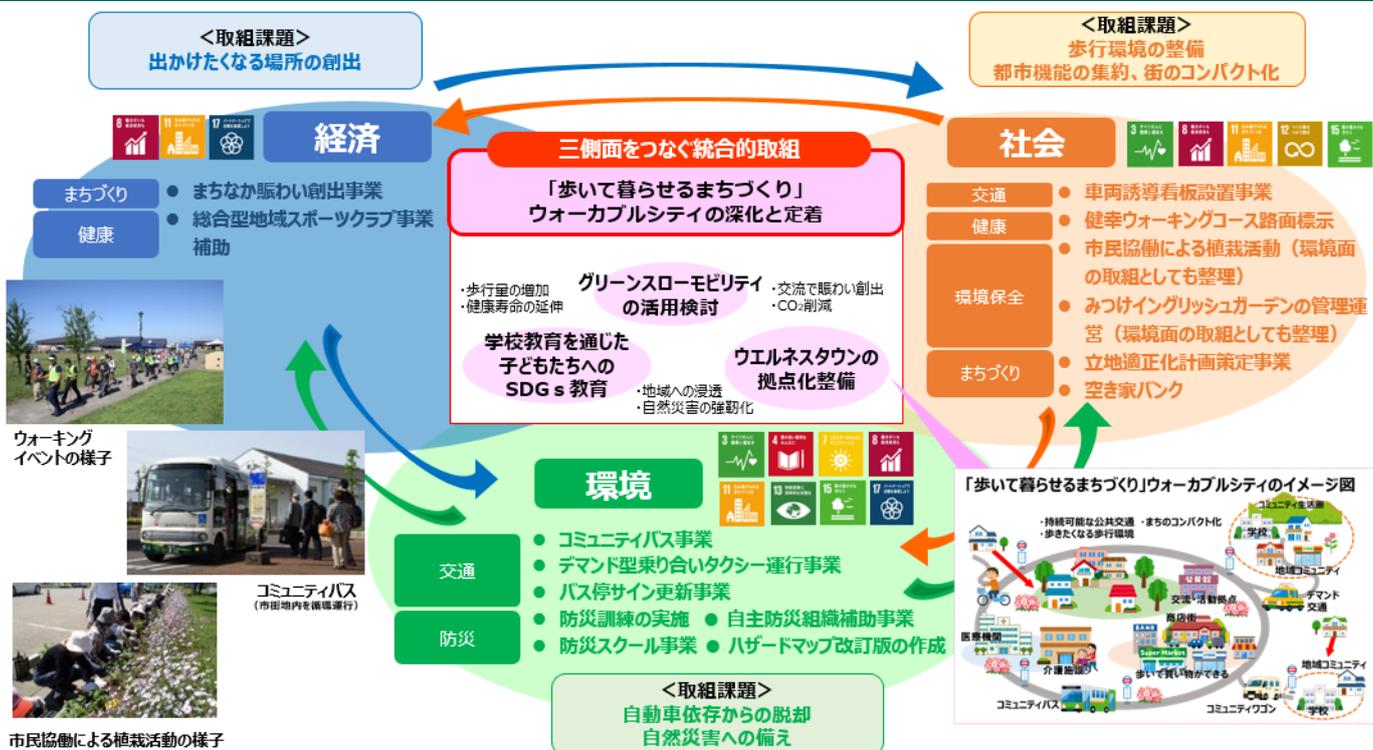
見附市SDGs未来都市計画（R1～R3の3か年計画）

資料1

～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着～

<p>1.目標及び課題</p>	<p>目標である「<u>住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市</u>」の実現にあたっては、①日常生活で必要な運動量が確保される「<u>歩いて暮らせるまちづくり</u>」の推進、②社会参加を通じた交流の喜びや生きがいの享受がポイントであり、公共交通の整備や誰もが社会参加しやすい場所、環境を整えることで誘導を図り、市民の行動変容に繋げていく。</p>	<p>2.関連するゴール</p>	
<p>3.取組の概要</p>	<p>「歩いて暮らせるまちづくり」の推進により、歩くことで健康増進を図るとともに、まちなかに歩行者を増やし、人と人が触れ合え交流でき、賑わいのある中心市街地として都市機能を集約し、将来に渡り持続できる都市形成を図る。ポイントとしては、①外出しやすくする仕掛け、②賑わいを創出する仕掛け、③市民の行動変容を誘導する仕掛けの3つの視点を持って、総合的に施策を展開する。</p>		

■ 見附の健幸まちづくりがSDGsの理念(誰一人取り残さない・持続可能な地域)と合致 ⇒これまでのSWC施策をSDGs的に整理して、SDGs未来都市計画を構築



● KPIの進捗状況

→全体的には順調に進捗していると分析

	KPI	当初(H29)	現在(R1)	目標(R3)	進捗状況
1	コミュニティバス利用者数	161,458人	184,647人	200,000人	↗
2	創業・起業の件数（累計）	15件	24件	24件	↑
3	中心市街地での出店数（累計）	8件	11件	12件	↗
4	介護認定率の伸び率の抑制	17.1%	17.6%	18.1%	↗
5	主要企業の地元就労率	38.1%	40.3%	50.0%	↗
6	見附市外から転入した人数	1,003人	+71人	+150人	↗
7	20代30代の社会動態	△24人	△75人	+15人	↓

令和元年度の取り組み

①コミュニティバスのルート最適化、グリーンスローモビリティの導入可能性調査

・住基情報や各バス停の利用者数等のデータを活用し、人口密度と走行ルートの適切性を調査。

→ウォーカブルシティを実現するためのインフラ整備として、深刻な運転手不足を克服し、持続可能な公共交通網を構築する。



コミュニティバスルートと人口分布の空間分析調査

②公共交通利用促進キャンペーンの実施

・コミュニティバスの増車に合わせ、全台にSDGsマークのラッピングを実施。
・コミュニティバスを利用したスタンプラリーや、郊外地区から市街地へ接続するデマンド型乗合タクシーの割引キャンペーンを実施。

→SDGsの周知啓発に併せ、普段、公共交通を利用しない層の利用促進を図る。



③ウエルネスタウンの拠点化整備

・市が目指すまちづくりのモデル地区であるウエルネスタウンに福島県の災害支援仮設住宅を再利用し、防災倉庫を整備。

→自然災害への強靭性を高め、まちづくりのシンボルとして拠点化を図り、当市のSWCやSDGsをPRする情報発信基地とする。



④SDGsとプログラミング教育を連携させたモデル授業の実施

・長岡技術科学大学の協力を受け、SDGsを題材としたプログラミング教育のモデル授業を実施。

→子供の中からSDGsを学ぶ機会を提供し、子どもから保護者、そして地域住民へと浸透させ、SDGsが市民に根付いていく仕組みを構築する。



コミュニティバススタンプラリー

令和2年度の取り組み

①新しいレンタサイクルシステムの社会実験

・管理人が常駐することなく、24時間利用が対応可能な新たなレンタサイクルシステムをR3から本格導入予定。

②市内小学校のSDGs学習との連携

・「住み続けられるまちづくり」を学ぶことを目的として、当市のSDGs取り組み事例を講演。R3.2月に学習成果のまとめとして、SDGsを題材としたミュージカルを公演。

③みつけSDGsパートナーの募集開始

・SDGsの普及啓発を目的として、R2.4月より市と一緒にSDGsを社会に広めてくれる企業、NPO、市民団体を募集。R3.2月末時点で26団体が登録。

